

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【食】【知的財産権】

- | | |
|-------------|---|
| 1. 都道府県、市町村 | 石川県 <small style="font-size: small;">ななおし</small> 七尾市 |
| 2. 団体名 | 沢野ごぼう生産組合 |
| 3. 取組みの名称 | 献上品沢野ごぼう増産とグリーン・ツーリズム |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

沢野集落では昔から普通より太いごぼう（沢野ごぼう：直径3cm以上、長さ70cm以上）を生産していたが、そのごぼうが江戸時代、加賀藩前田家や幕府にも献上されていたことを知り、この伝統あるごぼうを継承しなければいけないと思い、平成15年に沢野ごぼう愛好会を、翌16年に沢野ごぼう生産組合を農家・非農家の25名で立ち上げ、以下のような活動を行っている。

①グリーン・ツーリズムの推進

都市住民との交流を図るため、ごぼう祭りの開催、ボランティアによる種植え、収穫体験、ごぼう券を配布してのごぼうのプレゼント、空き家の貸出しによる学生との交流、農家レストランでのごぼう料理提供など好評を得ている。

また、外国人、地元幼稚園、大学生による体験農場では美しい自然を提供し、心の交流を深め、沢野ごぼうに愛着を深めてもらい交流人口の拡大を図っているほか、新たな就業の場、観光地としての波及効果が期待される。

②沢野ごぼうの商品化

加工食品会社と連携し、一年中ごぼうが楽しめる商品を開発。ごぼうの葉を利用したうどん、クッキー、アイスクリーム、まんじゅう、焼き麩、そうめん、七日炊きごぼう等を商品化し、高付加価値化による農業所得の向上につなげている。

③遊休農地の解消

外国人、大学生、企業による体験農園で労働力を確保し、国の補助事業を活用したごぼう掘機の導入により作業時間の短縮や労働力の軽減が図られ作業効率が上がっている。また、観光客が増えたことにより、地元農家の生産意欲が向上し、農地保全・景観保全に対する住民の意識が向上している。

④PR活動

ごぼう女神による宣伝活動やホームページの開設のほか、ロゴマークの商標を平成19年度取得し、ブランド化を推進している。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
生産量	198.57	107.50	107.28	167.07	232.54
解説	単位：kg 沢野ごぼうの生産量				
生産額	278,000	150,500	150,185	233,900	325,550
解説	単位：円 沢野ごぼう加工品（まんじゅう、麩、クッキー、うどん等）				
イベント回数	4	6	8	10	11
解説	単位：回 外国人による農家ビジット、ごぼう掘り、ごぼう祭り等				
イベント参加者	206	238	280	316	338
解説	単位：人 外国人、大学生、県外住民				

◇活用している地域資源

- ・みずぶき（山菜）
山間部に位置しているため、みずぶき取り体験もできる
- ・国定公園伊掛山と県銘木百選に選定されている「伊掛山大銀杏の木」
標高約250mから富山湾と立山連峰が一望できる
- ・山野草
連福草（五輪草）が群生し、野山散策が楽しめる
- ・漁港
定期的に朝市が開催され、新鮮な魚を提供している

◇地域活性化のポイント

・観光客などから沢野ごぼうの美味しさを認めてもらうことで農家の生産意欲を上げ、生きがい作りになっている。

- ・沢野ごぼうの販売量アップにより農家所得の向上が図られ、専業農家の増加や雇用の創出につながっている。
- ・地元住民の沢野ごぼうへの愛着が深まったほか、沢野ごぼうのオーナー制度を取り入れたことで地元企業、住民が集落を訪れ、地域との交流を図っている。

◇事業の今後の展開方向

学生とのさらなるつながりを深めるため、農業体験のみならず、漁業の定置網体験、里山での竹の子掘りなど、地域の1次産業全てが体験できるシステムを構築し、インターンシップの受け入れを推進する。その一方、観光客には、日帰り観光だけでなく近隣の旅館、民宿での宿泊による滞在型観光を目指す。

沢野ごぼうの収穫は10～11月であるが、年間を通じて加工商品が供給できるよう、杉林を畑に戻し、ごぼう生産面積の拡大を図る等、農家所得のさらなる向上を図る。

また、「ごぼう掘り遠征学生隊」を大学生で組織し労力軽減を図るほか、機械化を取り入れ、企業の農業参入を図ることで双方に利益が生まれる仕組みを構築していくこととする。

